

仙台地方に江戸時代から伝わる^{たこ} 凧

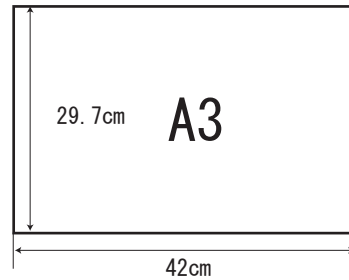
するめてんばた 作りにチャレンジ!

「てんばた」は漢字で書くと天旗で、「凧」という意味です。形がスルメに似ていることから、「するめてんばた」と呼ばれています。江戸時代からある凧で、仙台を中心とした地域の伝統的な手作り凧です。

1. 材料と道具を準備しよう!

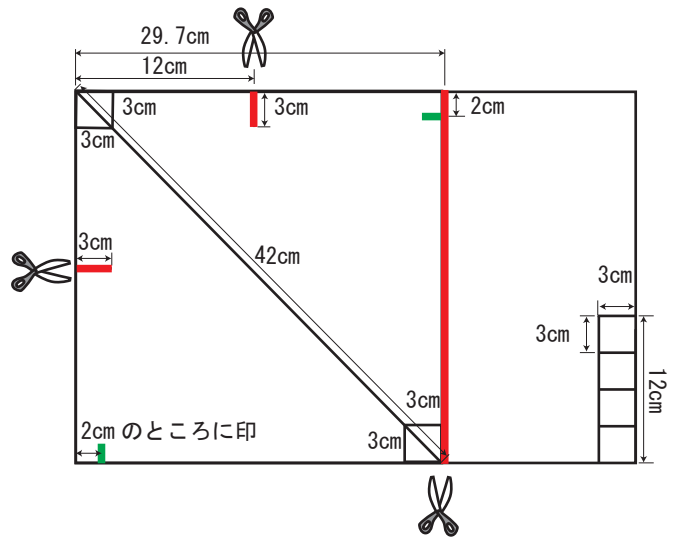
材料：A3 白紙1枚(できれば和紙またはしょうじ紙)、竹ひご径1.8mm 2本。

道具：はさみ、えんぴつ、マジック、のり、両面テープ、セロハンテープ、植木はさみまたはペンチなど。



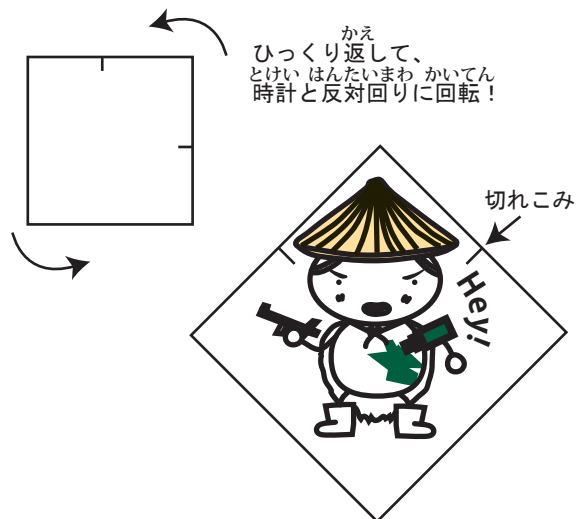
2. 凧の大きさに紙を切ろう!

A3の白紙をヨコに置いて右の図のように線を書こう。線を書いたら、図の赤色のところだけ切ってね。



3. 凧のおもてに絵を描こう!

紙をひっくり返して、ダイヤの形に置こう。切れこみのある方が凧のあたまになるよ。紙を正しく置いたら、絵を描こう。絵を描いた方が凧のおもてになるよ。文字を書いたり、好きな色をぬったり、自分だけの「するめてんばた」にしよう!



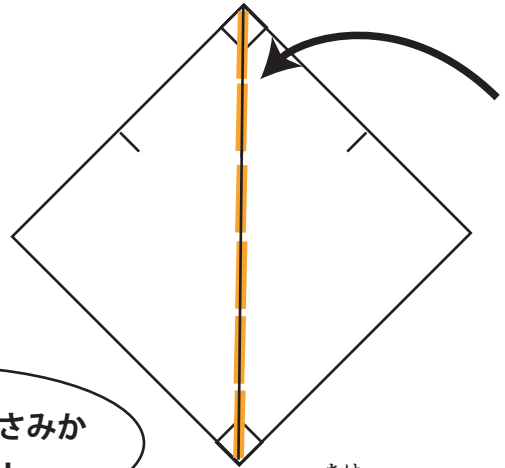
4. 凧のウラに竹ひごの「ほね」をはろう！

① タテの竹ひごをはろう。

最初に線を描いた方(ウラ)に返してまっ
 すぐな線がタテになるように紙を置こう。
 線の上に両面テープをはり、長さ 44cm に
 切った竹ひごをはろう。

* のりではってもいいよ！

たけ うえき
 竹ひごは植木はさみか
 ペンチで切ろう！



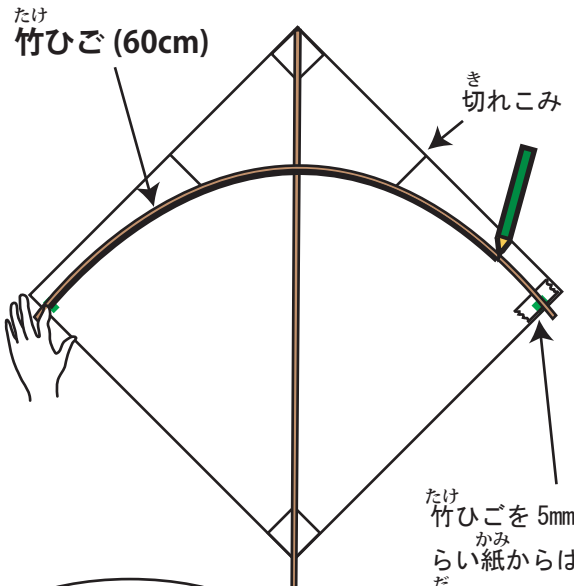
たけ
 竹ひご (44cm)

② ヨコの竹ひごをはる位置を決めよう。

竹ひごを 60cm に切り、右はしの印に竹
 ひごのはしを合わせて置いて、テープで
 とめよう。5mm くらい紙から出るよう
 にとめてね。

次に左はしの印に竹ひごをあわせて手で
 おさえよう。上の切り込みに接するよう
 に竹ひごを曲げてね。

竹ひごにそってえんぴつで線を書こう。

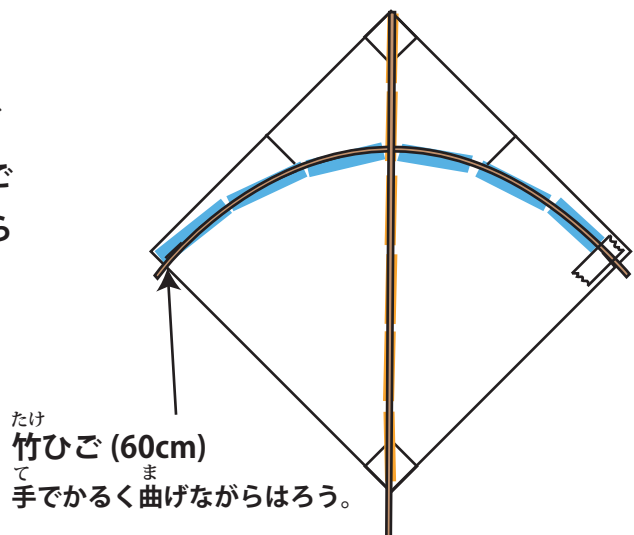


たけ
 竹ひごを 5mm くら
 い紙からはみだ
 出させてテープ
 でとめよう。

さゆう おな
 左右が同じになる
 ように作ろう！

③ ヨコの竹ひごをはろう。

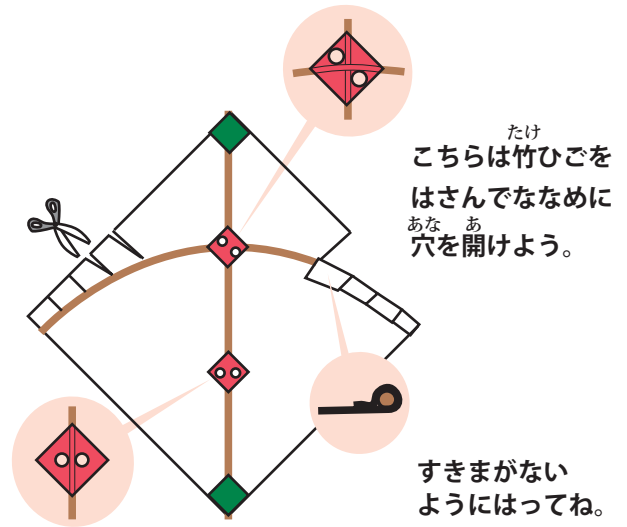
書いた線にそって両面テープをはろう。
 5cm ぐらいつつ切ってはるとじょうず
 にはれるよ。テープをはったら、竹ひご
 を左右が同じ形になるように曲げながら
 はろう。
 竹ひごをおらないように気をつけてね。



たけ
 竹ひご (60cm)
 て
 手でかるく曲げながらはろう。

5. するめの形にしよう！

- ① 凧の肩の部分に切れ込みを入れ、竹ひごを巻くように折ってのりではろう。紙と竹ひごにすき間ができないようにはろうね。
- ② あまった紙から小さな正方形を4個切り取ろう。図の緑と赤のところのにりはってね。凧が破れにくくなるよ。
- ③ 紙をはったところの上から数えて2番目と3番目(図の赤色)に、たこ糸をつける穴を2つつあけよう。



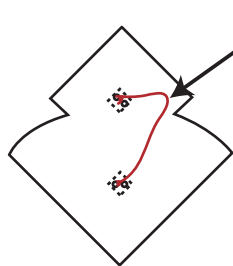
なるべく竹ひごをはさんで
ひだりみぎおなじ
左と右で同じ位置にあけよう。

こちらは竹ひごをはさんでななめに
あなをあ
穴を開けよう。

すきまがない
ようにはってね。

6. 凧に糸をつけよう！

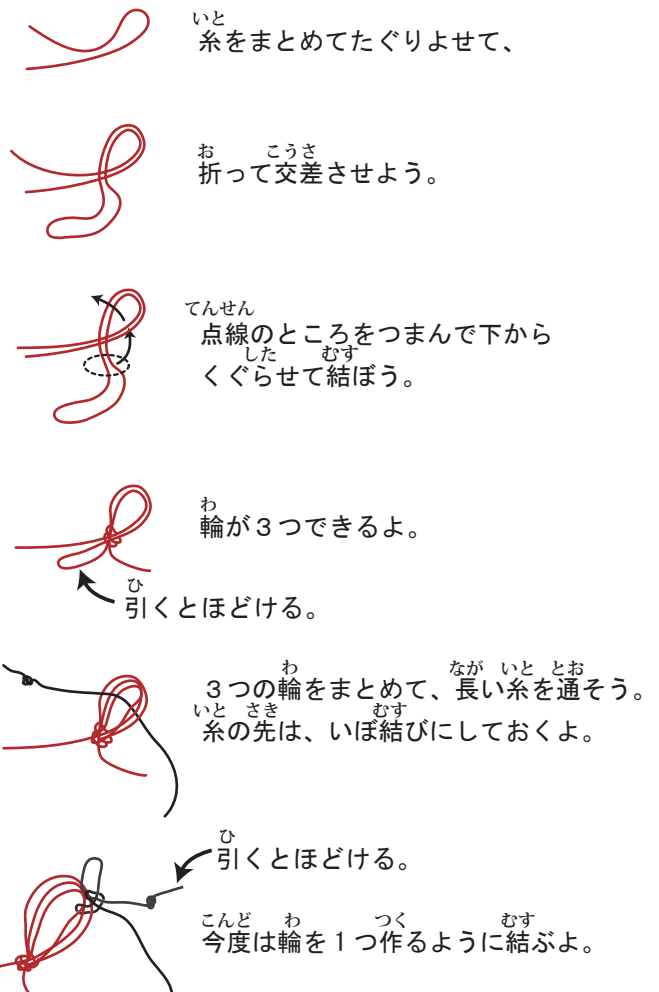
- ① あけた穴に糸を通そう。70cm ぐらいに切った糸を絵の描いてある方(オモテ)から穴に通してしっかり結ぼう。上と下の穴を糸でつないでね。
- ② 凧につけた糸を輪を作るように結び、そこに凧をあげるための長い糸を結びつけよう。



ここを結ぶよ。
最初は結び目より上の糸が少し短くなるように結んでおこう。

*するめてんばたは風の強さで上下の糸の長さを
ながかひつようみぎず
長さを変える必要があるんだ。右の図のように結んでおくと後で糸をほどいて、長さを
むすあと
変えやすいよ。

いとむすめがわ
糸の結び目はぜんぶオモテ側だよ。



いと
糸をまとめてたぐりよせて、

おこうさ
折って交差させよう。

てんせん
点線のところをつまんで下からくぐらせて結ぼう。

わ
輪が3つできるよ。

ひ
引くとほどける。

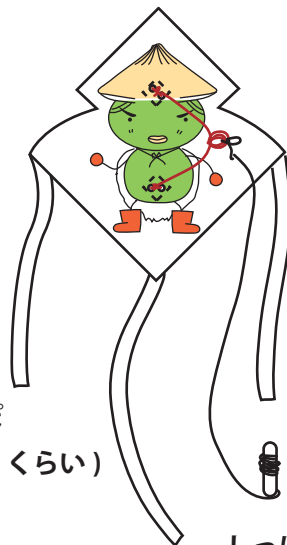
わ
3つの輪をまとめて、長い糸を通そう。
いとさきむす
糸の先は、いぼ結びにしておくよ。

ひ
引くとほどける。

こんどわつくむす
今度は輪を1つ作るように結ぶよ。

7. 凧にしっぽをつけよう！

ひだり みぎ した かみ
 左と右のはしと下に紙のしっぽをつけたら
 かんせい
 完成！



しっぽ
 (60cm くらい)

しっぽ
 (120cm くらい)

8. もし凧がうまくあがらなかったら……

① 回転して、つい落する場合

いと じょうげ なが かせ つよ あ
 糸の上下の長さが風の強さに合っていない
 たこ さゆう かたち おも ちが かのうせい
 いか、凧の左右の形や重さが違う可能性が
 あります。
 つぎ ほうほう
 次の方法をためしてみてください。

かせ つよ ひ たこ いと むす め うえ
 ・ 風が強い日は凧の糸の結び目から上の糸
 みじか
 をより短くしてみてください。

なが
 ・ しっぽを長くしてみてください。

たこ たけ めん そ
 ・ 凧のほねの竹ひごをオモテ面がふくらむ
 すこ ま あんてい
 ように少し曲げると安定します。
 ほね お ちゆうい ひつよう
 骨を折らないように注意が必要です。

② 凧がひらひらして、すぐに落ちてくる場合

かせ たこ いと むす め
 ・ 風が弱いかもしれません。凧の糸の結び目
 じょうげ なが おな なが
 から上下の糸の長さをほとんど同じ長さにし
 てみてください。

9. 凧がこわれてしまったら……

かみ たけ お ばあいしゅうり
 ・ 紙がやぶれたり、竹ひごが折れてもセロハンテープではれば、ほとんどの場合修理できます。
 いと いちど き むす だいじょうぶ
 ・ 糸がひどくからまってしまったら、一度糸を切って、結んでつないでも大丈夫です。
 ほどけないようにしっかり結んでください。

せんろ でん せん はな たこ たの
 線路や電線から離れたところで凧あげを楽しもう！！

